

# 学ぼう!! パソコン

— パソコンで変わる私たちの暮らし —

## 【男女共同参画社会とPCライフ】

コマーシャルの中の男女役割を問い直す会世話人 吉田清彦

§ 95年以降、99年度までの5年間で、携帯電話の世帯加入率は10.6%から64.2%に、パソコン保有率は16.3%から37.7%に伸びた。 (朝日新聞2000年9月27日)

§ 今年度の通信白書によれば、わが国のインターネット利用者は2700万人。

(日本経済新聞2000年7月4日夕刊)

§ (経済企画庁がまとめた1999年度の消費者意識調査によると) インターネットの利用経験は全体で60.1%だったが、世代別では20代89.1%、30代67.1%、40代が47.9%、50代32.8%と、年齢が上がるに従って顕著に低下した。(朝日新聞2000年8月13日)

### 1、マス・メディアと女性差別

- ・国際婦人年世界会議「女子差別撤廃条約」行動プログラム(1975年)
- ・第4回世界女性会議(北京会議)行動綱領(1995年)
- ・男女共同参画2000年プラン(1996年)
- ・男女共同参画社会基本法(1999年)
- ・国連特別総会「女性2000年会議」成果文書(2000年)

### 2、パソコンをはじめとする新しい情報機器の、従来メディアとの大きな違い

- ①自分に必要な、さまざまな情報を自分で引き出すことができる
- ②情報の発信者、提供者になれる
- ③情報の交換を通して、自前のネットワークをつくり、広げることができる

### 3、パソコンで変わる私たちの暮らし

— パソコンで何が変わるか、どう変わるか。パソコンをどう使うか、どう生かすか

⇒情報を収集・編集・加工し、発信・提供・交換し、ネットワークをつくり、広げる

※必要な情報 (a)自分や家族の暮らしや健康に必要な情報

(b)社会変革のために必要な情報

⇒行政に対する政策提案(まちづくり、福祉、子育て、教育、etc.)

※暮らしに役立つさまざまなホームページ

- ・市内の介護保健サービスの詳細な情報（市内の介護サービス事業者の開業時間やホームヘルパーの人数、交通手段など）  
⇒西宮市 (<http://www.nishi.or.jp/>) の「高齢者あんしんネット西宮」  
(朝日新聞2000年9月1日阪神版)
- ・各種がんの解説や治療法、副作用、がんの関連医療機関など一般向けの情報  
⇒国立がんセンター (<http://www.info.nec.go.jp/>)  
(朝日新聞2000年9月24日)
- ・葬儀の料金や段取り  
⇒セキセイ（葬儀社への贈答品卸会社） (<http://www.sekisei.co.jp/>) の「お葬式プラザ」  
(日本経済新聞2000年9月5日夕刊)

※IT（情報技術）を利用したその他のサービス

- ・遠隔医療：ISDN—総合デジタル通信網で、診療所や市民病院、訪問看護ステーション、デイサービスセンターなどを結び、患者の情報を病院や介護施設が共有し、医療サービスの質の向上をはかる  
(日本経済新聞2000年7月11日夕刊)
- ・iモード（NTTドコモ）：手軽に電子メールが遅れるほか、ニュース閲覧、銀行サービス、チケット予約などができる  
(朝日新聞2000年6月10日)

※今後の課題

- ・通信機器の高性能化と低価格化、及び、通信コストの低減化  
(アメリカでは、昼間はパソコンをネットにつなぎっぱなしにするのが当たり前。それでも月々の電話代は4600円（朝日新聞2000年9月27日）)

[女性とインターネット]

- ☆「高齢者は灰色の世代ではない。自分のやりたいことができ、社会に貢献できる世代。そしてインターネットがその強力な手助けになる」(アメリカで、ネットを使った高齢者グループづくりや情報提供をしている会社サード・エイジ・メディアの最高経営責任者メアリー・ファーロングさん)  
(朝日新聞2000年9月24日)
- ☆「女性とインターネット社会をうまくあわせれば、女性の活動領域も広がっていく」  
「(新しい通信技術は)女性がより社会参加できる道具である」(NTTドコモでiモード開発にかかわり、新たな「女性サイト」を立ち上げた松永真理さん。iモードの利用者の4割が女性、20代が半数)  
(朝日新聞2000年7月11日夕刊)